

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	医療安全管理部(大森):医療安全の使命と可能性
別タイトル	The Missions and Possibilities of Patient Safety and Risk Management
作成者(著者)	古橋, 龍彦
公開者	東邦大学医学会
発行日	2018.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 65(3). p.149 150.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2018 031
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD39878245

教室(診療科)紹介(110)

医療安全の使命と可能性

医療安全管理部 (大森)

教授：渡邊正志
 准教授：前村俊満
 講師：寺田享志, 古橋龍彦
 医局長：古橋龍彦

はじめに

現在は医療に関連した事故やトラブルが社会問題として認識され、かつ医療財政も年々厳しくなっている。医療提供の在り方は厳しく問われているのである。

医療提供の有用性を決定づける要素はその質と費用とアクセス性である。これらは相反するがために各種妥協も強いられるが、最善を尽くさなければならないことは言うまでもない。

特定機能病院が社会的に負う責務は重大であり、法令や規則面でも厳しい基準が課せられている。医療安全管理部は安全の向上を介して医療の質及び有用性を高める責務を負っている。行政機関による年1回の立ち入り検査、年2回の外部委員を交えた監査委員会、他病院医療安全管理部との相互ラウンドは、客観性の維持と傾向性の払拭という点でも重要であろう。

業務内容

大森病院医療安全管理部は大森病院事務棟3階に部屋を構え、専従・専任11名及び兼任8名から構成されている。常勤医師は渡邊正志部長(教授)、及び古橋龍彦副部长兼医局長(講師)の2名である。また、兼任医師は産婦人科の前村俊満副部长(准教授)、麻酔科の寺田享志副部长(講師)も所属している。古橋は未承認新規医薬品等管理部部長、寺田は高難度新規医療技術管理部部長も兼ねている。

主にインシデント・アクシデント報告を収集、分析することで各種医療行為の問題点や妥当性を検証している。特に死亡事例や一定以上の有害事象は、過誤のあるなしに関わらず全例が収集と分析の対象となる。これによって、現場が十分に問題点を認識していなくても、当部門で独自に検証することが可能となる。

これらを週1回の医療安全管理委員会や月1回の安全管理対策委員会等で取りまとめを行い、セーフティマネージャー会議や診療部委員会、医局長会等を介して医療現場に通知している。その上、他の職員に対しても年2回の全体研修等で啓発活動を行い、安全に対する関心の向上と情



医療安全管理部集合写真、2018年4月撮影。

報共有を図っている。

更に東邦大学3病院の医療安全部門は、合同でセーフティーマネージャー研修会を主催し、連携のもとに協力している。

研究内容

日本医療マネジメント学会と医療の質・安全学会には継続的に参加及び発表を行っているが、極めて実務的な組織故に発表内容は活動報告が主体である。その中でも医療におけるチームパフォーマンスを向上するための枠組み“Team STEPPS”など、チーム医療の推進が主な課題である。横断的に各種連携を図るには的確な情報の収集と共有が基本かつ重要であり、最終的に医療の質及び有用性を向上させようと考えているからである。

地域連携との関与

地域包括ケアが推進される今日では、他の医療機関との

密接な連携も求められる。2014年12月に大田区医療安全ネットワーク会議を立ち上げた。以降、事故対応や医療安全活動に関する協力体制を取っている。

終わりに

社会で複数の人間が関わって活動がなされる以上、利害の衝突や権威勾配は避けられないものである。従って、相手を尊重した主張（アサーション）やチーミングは意識しない限りは十分になしえない。特に医療は生命に関わるものであり、高度化に対抗するには、チーム医療は不可欠である。

実現困難ではあるが、医療現場での情報の共有が医療行為に客観性を持たせ、間違いや現場の疲弊を回避し、最終的には効率化をもたらさうるものであると信じてやまない。

(古橋龍彦)

DOI : 10.14994/tohoigaku.2018-031